

氏 名：竹内 翔子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 127 号
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）
副査 松谷美和子（聖路加国際大学教授）
副査 片岡弥恵子（聖路加国際大学准教授）
副査 百枝 幹雄（聖路加国際病院）

論文題目：Randomized Controlled Trial using Smartphone Website vs
Leaflet to Support Antenatal Perineal Massage Practice for Pregnant
Women
妊娠中の会陰マッサージの継続を支援するスマートフォンサイト対リーフ
レットによる無作為化比較試験

博士論文審査結果

本研究は、初産婦に対して妊娠中の会陰マッサージの継続を支援する 2 種類の教材；スマートフォンサイトとリーフレットとを比較し、その有用性を検証したランダム化比較試験である。結果は、協力者 161 名のうち最後まで回答した者はスマートフォンサイト群 47 名、リーフレット群 49 名であり、両群ともに約 8 割の女性が教材の有用性を認めていた。しかし、会陰マッサージの継続率（少なくとも週に 3 回以上を 3 週以上実施）は 2 群による違いは認められず、スマートフォンサイト群 51.1%、リーフレット群 51.0%の継続率であった。継続率そのものは、先行研究の特定教材がない場合の 15%に比べて高率であった。

審査での議論は、なぜ脱落者が多くなったのか、なぜ差が認められなかったのかという点であった。教育者である助産師との相互作用の如何や、学習者である妊婦への動機づけ（マッサージ効果の理解）、Web-based 教育の効果が認められる前提要件などの議論があった。さらに今後の教育プログラムとして、実技指導の導入、個別対応と集団対応の可能性、対面での仲間作りから Web 上での掲示板を用いた支えあい等の相互作用について考察への加筆が求められた。

ほか、日本語タイトルを英文本文に揃えること、サンプルサイズ算出と仮説表示に一貫性を持たせること、ふたつの教材内容を併記して表示すること、質問紙への回答がなかった対象者へのアプローチ、今後の研究計画の加筆が指摘された。特に、妊娠中の会陰マッサージの真のアウトカムは分娩時の会陰裂傷を予防することであり、その仮説を裂傷リスクの高いアジア人で検証するための研究をさらに推進していくことが期待された。

本文は、英文で記載され読みやすくスマートな論文であり、ベースラインとしての実態調査から、教材開発、そして有用性の検討という比較研究を積み重ねた大変意欲的な研究であると評価された。会陰裂傷を予防したいと願う妊婦への教育教材の可能性と限界を示した研究であり、助産実践への貢献は大きい。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。

